

Scienceの心で苦境を打ち破る

渡 邊 弘 樹

最近の歯科医療関連についての新聞記事で賑わせているのは、歯学部進学希望者の減少、歯科医師の過剰、歯科医療従事者のワーキングプアーと歯学部在職する人間にとっては辛い話題ばかりです。しかしながら、本当に先行きを見通せない壁なのでしょうか？

これらには複合的に種々の要因があるとは思いますが、このうち歯学部志望者減少と歯科医療のワーキングプアーは、世の中が歯科医師過剰と評価していることに関係する訳ですから、過剰問題について最初に考えたいと思います。私が学生時代は歯科医師が不足して、患者が実際に治療してもらうまで半年から1年待ったものです。それがこのように歯科治療患者が減った原因は、種々あるとは思いますが、一つは国民病とまで言われていた齲蝕が減少したことであり、最も大きい因子は齲蝕を罹患する年代の子供が減少したことが挙げられます。しかしながら、国民の年齢層が上昇するに従い歯周疾患が増加し、摂食嚥下障害や顎関節症など他の疾患が増加しています。しかしながらこれらの疾患は、現在歯科医師の主たる収入源にはなっていません。我々歯科医師と医政、そして保険制度が時代変化についていけないのではないのでしょうか？歯科医療は消失していいものではなく、なくてはならないものです。時代を見越した歯科医療制度に移行する努力を怠った結果、現状になったのではないのでしょうか。もちろん臨床診断や治療に結びつく成果を出してこなかった歯科基礎医学および臨床歯学研究者の責任もあります。これらの歯科医療の現状を、若い人たちは敏感に感じ取って、さらに社会や報道機関の歯科医療ネガティブキャンペーンによって、歯科医学に対する志である若い芽を摘み取っています。では若い人たちはどういう職業や仕事をしたいのでしょうか？

ある首都圏の高校1年生における進路調査アンケート(平成21年度)によると、1)「あなたにとって働くことの目的や意味は何か」に対して、①達成感や充実感を得るための自分の成長、能力向上の場。②専門性を深める場、社会の流れ、構造を実感する場。③社会への貢献の場。感謝すること、されること、支えてくれた人への恩返しとの場と答えています。2) つぎに「将来就きたい職業」については、64.7%の学生が専門的、技術的職業と述べています。3)「進学したい学部」は、12%医学科が存在するのに対して、歯学科は0%でした。1), 2)によると、達成感や充実感が得られ、社会貢献も明確で、専門的技術的職業と言え、歯科医学、歯科医師に焦点が合うはずですが、それなのに歯学部希望でない。これは、歯科医師、歯科医学が正しく理解されていない、認識されていないということを意味します。歯科医師の姿として、歯を削っている姿を思い浮かべているのでしょうか。歯を削っている姿は、歯科医師の一面にすぎなく、その姿の前に「Scientist」である必要があります。いまさら述べるまでもなく歯科医学ほど、サイ

エンスと結びついているものはありません。もっと社会に、サイエンスに満ちあふれた歯科医療、歯科医師というイメージを発信しないといけないのではないのでしょうか。

歯科医師が多いと言われていますが、20年後はどのようなのでしょうか？完全な高齢化社会になったとき、義歯やインプラント、摂食嚥下、顎関節などの問題で、患者数は増えているでしょう。現在の医療行政からいって歯科医師数は半減させられ、歯科医師は大変多忙な毎日をおくっているに違いないと思います。その時のことを考えれば、現在の学生は直前にある壁を乗り越えることができるでしょう。若い人にはその時代が来ることに思いを馳せ、確かな充実感、達成感を感じ取れる歯科医学の道に、進路を取って欲しいものだと思います。

そのためには、われわれ大学教員は、「Scientist」である歯科医師を育てなくてはなりませんし、研究する心を持った臨床医を増やさねばなりません。実際には、学部学生や大学院生、さらに若い医局員の先生方に、科学的研究に親近感を感じさせるような場と経験を授けねばなりません。さらに研究が如何に楽しいものであるかを味あわせる必要があります。これらは授かるものではなく、自分で考え、行動し、得るものであることを実感させる必要があります。さらに研究することで、目的と将来の夢を持たせる環境を整えてやることも大切です。今後の歯科医療全体を発展させていくためには、口腔内だけの守備範囲でなく、身体全体の調和の中で口腔機能、口腔疾患という観点で捉えられる歯科医師を育て、意識、思考面および行政面における壁を含む「歯科を取り囲んでいる壁」をもっと外へ押し広げ、ベルリンの壁のように切り崩す必要があると思います。そうすることで次世代を担う若い先生が、evidenceに基づいた歯科医療の実践や歯科医学の発展において、それぞれ大きく羽ばたいてくれるものと信じます。そして上記のことを実践してくれる臨床医、開業医、基礎医学者が、歯科医学、歯科医療の道に進路を取る学生を呼び集めてくれると思います。最後に「Take a stand for Dental Science」この言葉で締めくくりたいと思います。

(奥羽大学歯学部生体構造学講座・口腔組織学分野)